



•Tackle Guide
仕掛けは全長2メートルの2本バリを基本に潮が緩いときは1.4~1.6メートルのショートタイプ、速ければガン玉を装着するといふ。竿はエサ取りのアタリも分かる穂先がしなやかなタイプが使いやすい。

多くので穂先の変化に神経を

ゲストのオンパレード
その後も良型のアマダイは姿を見せることなく残り時間も2時間を切ったところで私も竿を出してみた。サミングをしながら仕掛けを海底まで送り込むと、ほとんど糸フケは出ない。やはり

まだ潮の動きが緩慢なようだ。着底後に海底をオモリでトントンと4~5回たたいて振動と砂煙を立てる動作を行う。アマダイは砂泥地に巣穴を掘り、穴から頭を出してエサがくるのを待ち構えている。時にはエサを求めて巣穴から出てくる場合もあるが、行動範囲は天敵からすぐに逃げ込める狭い範囲となる、縄張り意識の強い魚だ。



▲相模湾のアマダイは今シーズンも多くファンを楽しませてくれるだろう

相模湾のアマダイ開幕！ 本格シーズンが楽しみだ

●相模湾湘南片瀬港発↓江ノ島沖 本誌ABC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

好スタートが一転…

釣りを楽しむに本当によかったと思う。それは新鮮でおいしい魚や、魚屋ではめったに入らない高級魚を自分で釣ることが出来るからにほかならない。アマダイもそんな魚の一つで、スーパードではなかなか売っていない希少な魚だ。それなら自分で釣ってやろうと9月中旬に相模湾湘南片瀬港のゆうせい丸に釣友と足を運んだ。

10分ほどでエンジンがスロウダウンしたのは江ノ島沖。「水深は72メートル。準備のできた人から始めてください」とさっそく開始の合図が出た。アマダイのタナはオモリを海底から1メートル上げたところが基準となるが、道糸の角度から潮が流れていないと判断した船長は続けて「底から1.5メートルを基点に誘って」と高いタナを指示した。

私は全体が見渡せる船の突端に移動して左舷ミヨシの成沢さんの誘い動作を撮影している、その穂先がググッと絞り込まれた。幸先よく1投目からアマダイがヒットし30センチ級が釣れ上がる。それを写真撮りしている、

「こっちも釣れたよ」と声がかかり振り向くと右舷ミヨシの小川さんが38センチのアマダイを釣り上げていた。



▲開始早々に本命を連発

小川さんは次の投入でも25センチと小ぶりながらアマダイをゲット。するとアマダイ初挑戦のことで私が出船前にレクチャーした大村さんが28センチのアマダイを取り込む。「いや、記者さんに教わったとおりにしたら釣れちゃいましたよ」と満面の笑みで写真に収まっていた。

そして、朝イチの好スタート以降は全くアマダイのアタリがなくなってしまう。本来アマダイ釣りはエサ取りとの戦いでもあるのだが、仕掛けを回収しても、付けエサがそっくりそのまま戻ってくる。原因は全く動かない潮と波一つ立たない無風状態、加えてギンアナゴやイッテンアカタチが頻繁に釣れることから底潮がかなり濁っているのだと思われる。

船長もアマダイを釣ってもらおうとポイント移動を繰り返す、少し深めの水深100メ

知得! Tips and Tricks
エサ取り対策には ワーム

今回はエサ取り対策として青物などで使うオキアミ型のワームを使ってみた。検証時間が短かったため食いのよし悪しについてはデータ不足だが、一応エサ取りにやられることもなくアマダイ以外の魚はヒットしてきた。ワーム自体に浮力があるので使用する際はガン玉を装着するといいかも。



▲釣り場が近いのもうれしいところ

●船宿 information
相模湾湘南片瀬港
ゆうせい丸
☎0466-27-8309
(詳細は巻末の情報欄参照)

早川 竜洋船長

▶料金=アマダイ乗合一人1万500円(付けエサ、水付き)
▶備考=出船6時半。無料駐車場あり

タチのダブルでガッカリ。その後は巻き上げ途中でストップ抜けと、最後は何かハリスを切られてジ・エンド。釣果はアマダイ0~3尾で「今シーズンで最悪」と船長は嘆いていたが、2日後にはトップ11尾と復調しており、これから迎える本格シーズンは十分好釣果が期待できるだろう。



▲アマダイはビギナーズラックもある